

千曲市文化財保存活用地域計画パブリックコメント意見・提案と回答

ページ	意見・提案	回答
・P42	市文化財の山城「小坂城」「屋代城」が抜けている。	屋代城については掲載されていますが、小坂城については加筆いたします。
・P56	市の中心部の一重山では昭和40年頃まで月見堂が存在し、月見の場所として酒を酌み交わしたとの記述があり、昭和の時代まで月見の文化が続いていたそうです。 (更埴郷土を知る会「ちょうま」14号ほかより)	テーマ型関連文化財3の構成文化財に一重山を加え、提案内容を加筆いたします。
・P60	下横町屋代宿脇本陣荷蔵わきの建物は私の近所ですが、現存しており、明治6年から21年まで屋代学校の教場となっていた。(屋代を語る会「屋代百選」より)	ご指摘の建物は未指定文化財であり、個人所有の建造物であることから、構成文化財への加筆はいたしません。
・P76	展示場所の不足については同感だが、川西地区と言及するのはどうか？個人的には開発が議論されている屋代地区がふさわしいと考える。千曲市の郷土資料館を作ってほしい。	川西地区と言及するのはどうか？というご意見につきましては、川東地区には、森將軍塚古墳館に企画展示を行うスペースがあり、これまで、考古資料を中心とした企画展示を実施してきました。千曲市の郷土資料館を作ってほしいというご提案につきましては、ご意見としてお受けし、方針5に示した通り、既存施設の活用していきたいと考えております。
・P78	加えられるなら、「活かす、活用する」視点も欲しい。新しいまちづくりに活かす試みも大事かと思えます。特に屋代地区の開発では現存する遺産を活かしたまちづくりをして欲しい。洪水跡の断面を活かした地下展示場をつくってほしい。水田も一部は景観として残すべきかと思えます。	「活かす、活用する」の視点については、方針3から方針5が該当しています。洪水跡の断面を活かした地下展示場をつくってほしいというご提案につきましては、森將軍塚古墳館に剥き取り断面があります。その周知を進めていきたいと思えます。「現存する遺産を活かしたまちづくり」「水田も一部は景観として残すべき」についてはご意見としてお聞きいたします。
・P112	テーマ③観月の文化に一重山を追加してほしい。	構成文化財に加筆いたします。
・P130	『屋代城範囲確認調査報告書』では一重山全体を史跡範囲としています。	範囲が不正確でしたので、正確な範囲に変更いたします。
・P165	令和3年に発足した「一重山みらい会議」も屋代城の保全活動に取り組んでいますので、付け加えていただきたい。	加筆いたします。
1.	計画は活用について信州千曲観光局との連携を強調しています。であるならば、観光局の発足時のコンセプトフレーズである「科野さらしなの里千曲」の観点を計画文書に盛り込みませんか。千曲市には千曲川をはさみ東側が信濃の国のもとなった「科野」、西側が都人のあこがれの「さらしな」という二つの超一級ブランド地名があります。市内の文化財を大きくこの二つの地名にぶら下げ、その魅力と価値を高めます。	令和4年3月に策定予定の「第二次観光振興計画」ではコンセプトが「月とあんずと温泉と」に変更されております。関連計画との整合のため、ご提案の加筆は行いません。ご理解ください。ご指摘のコンセプトに主旨につきましては、第4章「歴史文化の特徴」や第6章の関連文化財群に反映されているものと考えております。
2.	優先的に事業化するべきなのは文化財としての「冠着山」です。姨捨山の異名を持つこの山に、千曲市が優先的に、特に力を入れて調査・保存・活用に取り組み始めたというのは全国が注目するニュースです。この切り口による事業化は、ほかのテーマや地域の文化財の価値も高めます。	冠着山の歴史的重要性、調査の必要性は認識しております。ただ、その山域は更級地区と上山田地区に加えて、麻績村域、筑北村域にも広がっており、総合調査として十分な学術的成果を得るためには、人員、予算を含めた広範な調査体制の構築が不可欠であると考えております。こうした認識のもと、計画期間を長期としたものです。まずは、計画書所載の計画期間が明記された事業に取り組みつつ、地域及び地域団体も交えながら、調査の内容等について研究を進めてまいりますのでご理解ください。
・方針2	文化財を守るについて 近年、高齢の方の終活や断捨離の話を目にする機会が増えました。一方で高齢の方が幼少時代に、現在は史跡である場所で遊んだりして拾った遺物があると聞きます。個人所有の遺物や昔の写真などを整理する際に、どのように扱ったらよいか、地域の歴史史料の散逸を防ぐためにも、歴史文化財センターが受け皿になるとともに、市民に積極的に発信していただきたいです。	「方針4-1」市民と協働した文化財調査に「古文書や古写真の寄贈を広く呼びかける」を加筆いたします。
・方針4-6	長野市との連携について 森將軍塚古墳をはじめとする信濃のクニの系譜は、千曲市を超えて長野市まで広がっています。観光や学習で来るかたにも分かるような、広域でのマップづくりなども長野市との連携の中で検討していただきたいです。	ご意見としてお聞きし、実施の方策を研究してまいります。
当計画	なかで、地域型とテーマ型という視点で文化財保存活用計画を目指して目指していくことは市民にとて分かりやすく受け入れやすい。しかし、現代において地域文化に触れる機会と継承の場が希薄で、その意義が理解されていない傾向にあり、地域と切り離され、故郷のアイデンティティーが持てないことに繋がる。そこで、地域型とテーマ型の視点に加えて、古来伝統的に行われてきた通過儀礼のように、地域の伝統文化と文化財に触れる体験を、ライフサイクルに合わせてそれぞれの年代が相互に関わる体験を時系列で仕組みを整え、継承可能な循環を形成することを提案いたします。	指摘の通り、「地域文化に触れる機会と継承の場が希薄」になっている点は、文化財の継承における大きな課題であると考えております。学校や地域と連携の具体的な方策については、事業を進めていくなかで検討していきたいと考えております。